

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 「多様な生徒が集い、学び合い、それぞれの可能性を広げる学校」

本校は、多様な背景を持つ生徒が共に学ぶ場として、生徒に寄り添い、個々の成長に応じた教育活動を実践します。「入学してよかった」と思える学校をめざし、以下の3つの柱に基づいた取り組みを進めます。

①未来を創る力を育む学校：個別指導の強化やキャリア教育の充実を通じて、生徒が自信を持ち、社会の一員として活躍できる人材を育成する。

②誰もが安心して学べる学校：規範意識や共生の精神を育む教育を推進し、互いの多様性を尊重しながら成長できる場を作る。

③地域・家庭と共に歩む学校：地域資源の活用や保護者との連携を図り、地域に愛され、信頼される学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1. 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現

## (1) 学ぶ意義を理解でき、学びの「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり

ア. ICTや1人1台端末などを効果的に活用し、「参加したい授業」作りで「主体的・対話的で深い学び」の実現し、生徒に学ぶ喜びを感じさせる。

イ. 生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫をおこない、基礎学力の定着に向け、意欲的に学習活動に取り組む力を育む。

※学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業はプリント、ICT、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率をR9年度まで90%以上を維持する。(R4 90%, R5 91%, R6 96%)

※授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の肯定率をR9年度まで3.40以上を維持。(R4 3.36, R5 3.43, R6 3.44)

## (2) 希望する進路の実現

ア. 進路に関する情報をタイムリーに提供するとともに、保護者との連絡を密にし、学校・家庭が協調して指導にあたる。

イ. ガイダンス機能の充実をはかり、1年次より継続的に個々のニーズに応じた進路指導を行う。

※学校教育自己診断(生徒)で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率をR9年度まで85%以上を維持する。

(R4 83%, R5 89%, R6 95%)

※卒業生の希望進路実現率(R4 81%, R5 61%, R6 79%)をR9年度まで75%以上をめざす。

## 2. 社会に出て「取り残されない」ための支援

## (1) コミュニケーション能力の向上

ア. 社会を構成する一員として挨拶のできる生徒を育て、積極的な社会参加を図る。

※学校教育自己診断(生徒)で「自分はいいさつをしている」の肯定率をR9年度まで80%以上をめざす。(R4 75%, R5 87%, R6 83%)

イ. 体育祭、文化祭等、学校行事に自主的、積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。

※学校教育自己診断(生徒)で「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい」の肯定率をR9年度まで80%以上をめざす。(R4 81%, R5 88%, R6 79%)

ウ. ボランティア活動を通じて社会との結びつきを考えさせ、協働の意識を醸成する。

## (2) 課題を抱える生徒への支援体制の充実

フォローアップコーディネーター、生徒支援委員会を中心として一人ひとりのニーズを把握することで効果的な指導、支援を行い、安全、安心に学校生活を送ることができるようにする。

※学校教育自己診断(生徒)で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる」の肯定率をR9年度まで85%を維持する。

(R4 79%, R5 81%, R6 86%)

※中退率(R4 9.0% R5 3.7% R6 11.8%)をR9年度まで7.0%以下をめざす。

## (3) 倫理観、規範意識の確立

「いじめ」は重大な人権侵害であることを認識させるとともに、命の大切さ、善悪の判断等につながる教育を推進する。

## 3. 学校力の向上

## (1) 教員力の向上

ア. 授業見学、研究授業等により、授業力向上に取り組む。

イ. 首席を中心に、経験年数の少ない教員やミドルリーダーの育成に取り組む。

※学校教育自己診断(生徒)で「学校の授業の説明は、わかりやすい」の肯定率をR9年度まで90%以上を維持する。(R4 86%, R5 92%, R6 94%)

ウ. 非常勤講師の指導力向上に取り組む。

## (2) コンプライアンス意識の向上

ア. 不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止等について、未然防止のために職員研修を年1回以上実施し、徹底をはかる。

イ. セキュリティポリシーの徹底をはかり、個人情報管理体制を強化する。

## (3) 家庭、地域、中学校との連携強化

迅速な情報発信と情報の共有化を行い、地域資源の活用や保護者との連携を図ることで地域に愛され、保護者に信頼される学校をめざす。

※学校教育自己診断(保護者)で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率をR9年度まで85%を維持する。(R4 78%, R5 84%, R6 87%)

## (4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

ア. 避難訓練の予定がある週を「防災防犯週間」とし、授業をはじめ、さまざまな場面で生徒の防災意識を高めさせ、実践的な避難訓練を実施する。

イ. 保健・安全・衛生面での情報をタイムリーに生徒に周知し、感染症やアレルギー等への予防安全を徹底し、事故等の発生を抑制する。

## 4. 働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備

## (1) 職務の効率化

## (2) 健康的で働きやすい職場の実現

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 7 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【基礎学力の定着】</b>  生徒の授業に関する下記の4項目において肯定回答の平均がこれまで安定して89%以上を示していたが、大きく下回った。[89.5%]⇒83.8%  ・授業はプリント、ICT、映像等を使い工夫している [96%] ⇒91%  ・授業の内容に、ついていける [86%] ⇒84%  ・授業は、わかりやすい [94%] ⇒91%  ・授業中は、落ち着いていて学習しやすい [82%] ⇒ 69%  全ての項目において下降しているが特に「授業中は、落ち着いて学習しやすい」の項目が大きく下回っており、またこの傾向が特定の学年において顕著に見られた。  また保護者の授業に関する2項目の肯定回答の平均も [82.5%] ⇒75.0%と同様に下降傾向にある。</p> <p>校内のICT化、利用は恒常化できており、アンケートなどほぼ全ての調査をWebにて実施。</p> <p><b>【自尊感情の育成】</b>  生徒の自尊感情の育成としての指標である4項目は肯定回答の平均が [84.8%] ⇒84.0%と高い肯定率を維持している。  ・命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。[91%] ⇒89%  ・自分はいさつをしている。[83%] ⇒84%  ・体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。[79%] ⇒84%  ・話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。[86%] ⇒79%  人権HRをはじめ、防災学習など様々な機会をとらえて生徒に話し、生徒の声を聴き、粘り強く寄り添っていく指導の効果がでている。  いさつに関しては、登校時校門での積極的な声かけに応える形がいさつを返す生徒が増えている。学校行事についても生徒会執行部が自主的活動を支え、多くの生徒が充実感を味わったと思われる。</p> <p>その反面、保護者の同項目（4項目）での肯定回答の平均は [80.5%] ⇒73.0%と大きく減少しており、懇談などでの保護者の意見や、様子を共有していく必要がある。なお、その一方で「学校は家庭への連絡や意思疎通を行っている」の項目では [87.0%] ⇒91.0%へと上昇しており、生徒を通じて学校としての取り組みが伝わり、教職員からのきめ細かな連絡やHP、配布物など丁寧に情報を伝えられてはいると考える。</p> <p><b>【キャリア教育の充実】</b>  生徒のキャリア教育に関する5項目は肯定回答の平均が [86.6%] ⇒83.4%とやや下降し、保護者でも同様の3項目の肯定回答の平均が [84.6%] ⇒82.0%と下降した。しかしながら、応募前職場見学後の生徒への聞き取りを丁寧に行い、入試対策として進学ゼミの回数等を増やし、個別指導の充実を図っている。</p> <p><b>【総括】</b>  今年度は生徒の項目、29項目中18項目において下降が見られ、総じて数値は下がっているが、学年差によるものも大きい。また、保護者においてもおよそ半数の項目において下降、加えて生徒が大きく下げた項目に関連する項目においては連動して下降している。</p>	<p><b>【第1回7/11】</b></p> <p>&lt;学校経営計画全般についての意見・感想&gt;  ・近年の頻発している自然災害に関して、家庭でも「災害時の待ち合わせ場所」を決めておく必要があることを、生徒に伝えてもらいたい。  ・学校も個人も防災計画は具体的なものを作成する必要があるのではないか。  ・現在の定時制高校に対する世間の認識と、実態に乖離があるので広報に力を入れてほしい。  ・教員の心身の健康のため、働き方改革をすすめてほしい。</p> <p>※（意見を参考とした取組）災害対応  ・防災士による防災教室の実施。  ・避難訓練時の保護者への一斉連絡による参加協力。</p> <p>※（意見を参考とした取組）定時制高校に対する世間の認識向上。  ・地域へ貢献できる機会の創出。  ・准校長による学校訪問数の増。</p> <p><b>【第2回11/17】</b></p> <p>&lt;授業改善についての意見・感想&gt;  ・授業に対して真面目に取り組んでいて、雰囲気良かった。  ・授業で使用するプリントが生徒の学習に適している。  ・積極的に生徒が発言していて、活気があった。  ・（1限目の授業を受ける生徒数に対して）授業の出席率が向上している。</p> <p>&lt;授業アンケートについての意見・感想&gt;  ・非常勤講師の評価が良くなっている。  ・様々なことを見分ける力を養ってほしい。</p> <p>&lt;その他の意見・感想&gt;  ・選挙教育についてどのようなことを行っているのか。  ・学校が生徒の居場所となっていると感じられる。  ・引き続き、防災教育に力を入れてほしい。</p> <p>※（意見を参考とした取組）防災教育  ・避難訓練の振り返り学習の実施。</p> <p><b>【第3回2/18】</b></p> <p>&lt;学校教育自己診断・分掌チャレンジについての意見・感想&gt;  ・災害はその場になってみないと自分に落とし込めないこともあるが、周知をお願いしたい。  ・授業見学を発展させて、時間的制約はあると思うが研究授業へ繋げて行ってほしい。  ・生徒指導など学校として組織的に対応できていると感じる。  ・学校教育自己診断において「学校に行くのが楽しい」に対する肯定率を上げて、学校が楽しいと思える生徒さんを増やしてほしい。  ・生徒に対し、SNS利用に関するリスクや危険性を伝えて行ってほしい。</p> <p>&lt;学校経営計画全般及び授業アンケートについての意見・感想&gt;  ・運営協議会の意見を取り入れ実践してもらっている。  ・生徒意識が変わってきていることが伺える。  ・居場所作りとして行った「ねやていゲームCafé」を評価していただき、今年の以降も継続的な取り組みをお願いされた。  ・令和7年度学校評価、令和8年度学校経営計画に対し承認をいただいた。</p>

## 府立寝屋川高等学校 定時制の課程

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	<p>(1) 学ぶ意義を理解でき、学びの「達成感」を持つ授業づくりと環境づくり</p> <p>(2) 希望する進路の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICTや1人1台端末、視聴覚教材を取り入れ、わかりやすい授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末の有効活用、授業展開の工夫により、生徒が積極的に参加し「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施する。</li> <li>毎時「授業のめあて」を提示し、その授業の見通しと、ゴールを意識させる。</li> <li>生徒が学校で学びたいと感じさせる環境づくりを進める。</li> </ul> <p>イ・1年生に対して入学時、ネヤトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、認知能力の把握を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日1回は授業冒頭で「ネヤトレ」を実施する。1年間継続して実施することにより、認知能力の向上をはかる。</li> <li>年度末に、再度ネヤトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、1年間の認知能力の向上を検証する。</li> <li>生徒の特性を理解したうえで、個々の能力に応じて授業内容を工夫し、基礎学力の定着をはかる。</li> <li>日本語指導の必要な生徒に対する支援体制を整える。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・生徒、保護者の進路に関する理解を深めるため進路保健部と担任団が一体となり説明会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路だよりなど、生徒、保護者へタイムリーな情報提供を行う。</li> </ul> <p>イ・1年次より進路の手引き(ロードマップ)を活用し、系統立てた進路HRを実施、進路選択について考える機会を設ける。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)「学校の授業はプリント、ICT、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」肯定率90%以上を維持 [96%]</li> <li>授業アンケート「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」の肯定率3.40以上を維持 [3.44]</li> <li>長期欠席者(30日以上)の割合40%未満をめざす。 [49%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネヤトレを活用した本校独自の認知能力測定テストの結果に基づいて、効果を検証と活用を考える検討会を2回実施する。 [2回実施]</li> <li>新入生の2年生への進級率90%以上を維持 [89%]</li> <li>日本語指導アンケートの肯定率85%以上を維持する。 [94%]</li> </ul> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」肯定率90%以上を維持 [95%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(生徒)「進路指導に関する問No.15・16」平均肯定率85%以上を維持 [89%]</li> <li>卒業生の希望進路実現率75%以上を維持 [79%]</li> </ul>	<p>ア・肯定率 91% (○)</p> <p>生徒に対するアンケート等は、ほぼフォーム作成ツールを利用することにより1人1台端末等の活用機会が増え、生徒の実感からも90%以上の肯定的な回答が得られていると考える。</p> <p>また、特定の授業ではあるが、毎時間授業の振り返りに1人1台端末を使用している。</p> <p>・学校平均 3.36 (○)</p> <p>学校教育自己診断(生徒)では「授業の内容についていける」84%、「授業はわかりやすい」91%と、高い肯定率が見られ、生徒が一定の興味・関心をもって授業に取り組んでいると推察できる。一方で、授業アンケートでは2回とも同項目が最低評価となっており、自己診断結果との乖離が見られた。</p> <p>・長期欠席者割合 46% (○)</p> <p>担任をはじめ多くの教員が指導を行った結果、目標には届かなかったものの、欠席者の割合は昨年度より3%減少。今後も継続的な働きかけと支援体制の維持が求められる。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日1度は授業中に「ネヤトレ」を実施。認知能力測定テストの検討会を年度当初に1回目、年度末効果測定、ならびに生徒アンケートを踏まえ2月に2回目を実施。 (○)</li> <li>新入生の進級率 90% (○)</li> <li>肯定率 100% (○)</li> <li>日本語のスキル獲得、サポート体制、日本語の有益性に高い満足感を示している。</li> </ul> <p>ア・肯定率 88% (○)</p> <p>「進路通信」を年間4回発行し、進路に関するパンフレットや冊子の配布、進路HRなどを通じて、生徒・保護者への情報提供を継続的に行っていたが、大きく下回り、目標に届かなかった。</p> <p>イ・肯定率 88% (○)</p> <p>「将来について考える機会がある」肯定率87%</p> <p>「進路情報を伝えてくれる」肯定率88%</p> <p>1年時から進路HR等で意識づけを行っているものの、生徒は依然として進路を「自分のこと」として捉えきれていない。今後も主体的に向き合えるよう働きかけを継続する必要がある。</p> <p>・卒業生の希望進路実現率 75% (○)</p>

## 府立寝屋川高等学校 定時制の課程

2 社会に出て「取り残されない」ための支援	<p>(1)コミュニケーション能力の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・毎日の登校指導の中であいさつをする習慣を育む。社会を構成する一員として、自ら積極的にあいさつすることの意義をHR や集会等においても指導する。</p> <p>イ・生徒会が中心となって行事の企画運営を行い、自主的、積極的に参加できる環境をつくる。</p> <p>・HR などで行事にみんなで参加することの楽しさを伝え、参加したいと思う雰囲気醸成に努める。</p> <p>ウ・ボランティア清掃を実施する。</p> <p>エ・ラーケーションを活用し、生徒の自主的自立的活動を支援する。</p>	<p>ア</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「自分はあいさつをしている」 肯定率 77%以上を維持 [83%]</p> <p>イ</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい」 肯定率 80%以上を維持 [79%]</p> <p>ウ</p> <p>・年間3回以上のボランティア清掃を実施する。 [3回]</p> <p>・毎回ボランティア清掃の参加者を30人以上募る。 [平均36名]</p> <p>エ</p> <p>・ラーケーション活用者の報告書提出率 100%をめざす。 [新規]</p>	<p>ア・肯定率 84% (○) 生徒の登校時には、多くの教員が門に立ち、挨拶と声かけを行い、生徒が自ら挨拶をしやすい環境づくりに努めた。</p> <p>イ・肯定率 84% (◎) 行事の参加率：体育祭(77.3%)、文化祭(71.8%) 平均 74.6% (○) 各生徒会行事では、生徒会役員が中心となって運営を行い、生徒たちが主体的に参加し活躍できる体制が整っている。担当教員と生徒会役員による入念な準備により、行事は円滑に実施されている。また、行事後のアンケートにおいても、高い満足度が示された。</p> <p>ウ</p> <p>・ボランティア清掃を3回実施(4回計画、1回目が雨天中止)教員からの積極的な声かけもあり、延べ108名が参加。 (○) ・1回あたりの参加平均人数も昨年同様36名。 (○)</p> <p>エ</p> <p>ラーケーション活用者なし (ー) 教員への周知と理解を得たうえで、夏休み以降に導入し、生徒への説明も行ったが、現時点では利用者は出ていない。導入時期が遅かった点は否めないものの、インターンシップでの活用など必要性は認められるため、来年度に向けて再度運用方法を検討する。</p>
	<p>(2)課題を抱える生徒への支援体制の充実</p>	<p>(2)</p> <p>・フォローアップコーディネーターを中心にSC、SSWと連携を取りながら生徒支援委員会が中心となって活動する。また、情報は全教員で共有することで、一貫性のある指導を実施する。</p> <p>・生徒の居場所となり、教員との人間関係を構築する取り組みを実施する。</p>	<p>・学校教育自己診断(生徒)「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる」 肯定率 85%以上を維持 [86%]</p> <p>・中退率 7.0%以下を維持 [11.8%]</p>	<p>・肯定率 79% (△) 担任はもちろん、学年付教員、授業担当者、顧問、養護教諭など、多くの教員が生徒に関わり、生徒と話すことを大切にしていたが、生徒一人ひとりの感じ方に差があったことが要因として考えられる。今後は、教員側からの声かけや関わりの機会をさらに増やし、生徒が安心して頼れる体制を一層整えていく。</p> <p>・中退率 9.0% (○) 多くの教員が生徒に関わり、寄り添い指導を行った結果、目標には届かなかったものの、中退率は昨年度より2.8ポイント下回った。</p>
	<p>(3)倫理観、規範意識の確立</p>	<p>(3)</p> <p>・生徒向けの情報モラル・リテラシーの講演会や、情報の授業、人権学習を通じてSNS等の危険性を学び、正しい使い方を指導することで、事案の発生防止に努める。</p> <p>・いじめの未然防止・早期発見・早期解決のため組織的な対応を図る。</p>	<p>・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」 肯定率 87%以上を維持 [91%]</p>	<p>・肯定率 89% (○) 10月の人権講演会は「和太鼓ユニット 音鼓」様に来校いただき、ライブ&amp;講演会を実施。 大阪ガスネットワーク様より 防災士をお招きし、「考える防災教室」を実施。 11月には生徒の居場所創出として「ねやていゲームカフェ」を短期ではあるが開設。生徒がのんびりできる場所として運営した。 ・いじめアンケートなどで、生徒の気になる発言などを全て問題視し、指導、対応を丁寧に行った。</p>

## 府立寝屋川高等学校 定時制の課程

3 学 校 力 の 向 上	(1)教員力の向上	(1) ア・校内の相互授業見学だけでなく、他校との相互授業見学を通じて、全教員で授業力向上に取り組む。 イ・首席を中心に、経験年数の少ない教員やミドルリーダーの育成に取り組む。  ウ・非常勤講師の指導力向上に取り組む。	ア・イ ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業の説明は、わかりやすい」肯定率 86%以上を維持 [94%]  ・相互授業見学への参加(常勤教員)延べ人数 14 名以上をめざす。 [新規]	ア・イ ・肯定率 91% (○) 授業改善に向けた授業担当者の取り組みが、実感として生徒に伝わっている。加えて授業内に複数の教員、あるいは学習支援員が配置されている講座が多かったため、より細かい指導が行き届いたと考えられる。  ・24 名 (○) 各授業担当者が生徒との信頼関係を築き、生徒に授業を理解させ、わかる喜びを伝え、より自信を持たせて生徒の向上心を高められたと考えている。
	(2)コンプライアンス意識の向上	(2) ア・職員会議等において不祥事の防止、個人情報管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる  ・セキュリティポリシーの徹底をはかり個人情報の管理体制を強化する	ア ・職員研修を年 1 回以上実施する。 [1 回実施]  ・学校教育自己診断(教職員)「教職員は、法令、条例、規則を遵守して、業務を行っている」肯定率 100% [100%]	ア ・3 回実施 (◎) 個人情報の取扱いに関する職員研修 児童虐待に関する職員研修 不審者対応研修  ・肯定率 100% (○)
	(3)家庭、中学校地域との連携強化	(3) ・学校説明会や、相談会、中学校訪問を通じて保護者、地域、中学校の教員への情報発信を行い、地域に根差した学校としての役割を担う。  ・保護者への連絡の徹底と地域、中学校への情報発信(HP や外部での説明会)の鮮度を上げる。	・学校教育自己診断(保護者)「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」肯定率 85%以上を維持 [87%]  ・近隣の中学校訪問を 2 回以上行う。 [2 回実施]  ・HP の更新を年間 50 回以上行う。 [63 回]	・肯定率 91% (○) 細やかに丁寧にその都度、家庭への連絡を行っていることが評価されたと考える。  ・寝屋川市内 12 校に関して、1 回目は教員、2 回目は准校長が訪問し情報交換を行った。 (◎) (寝屋川市内 12 校 + 2 校)  ・57 回更新 (○)
	(4)危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	(4) ア・イ ・避難訓練の予定がある週を「防災防犯週間」とし、授業をはじめ、さまざまな場面で生徒の防災意識を高めさせ、実践的な避難訓練を実施する。  ・生徒に自らの命を守ることを意識させた実践的な避難訓練を実施する。	ア・イ ・防災に関する職員研修を年 1 回以上実施する。 [1 回実施]  ・学校教育自己診断(生徒)「地震や火災が起こった時、どのような行動をとればよいか知らされている」の肯定率 90%以上を維持する。 [96%]	ア・イ ・2 回実施 (○) 8 月に「災害時における職員による対応自主研修」を実施、また 2 月に寝屋川警察様にご協力をいただき不審者侵入に対する研修を実施。  ・肯定率 95% (○) 校内にて「緊急地震速報」を流すなど、実際にイメージして行った。また避難訓練 1 か月後に振り返りの時間を設けた。避難訓練のアンケートにおいて「先生の指示は伝わったか」95%の生徒が「伝わった」と回答。また、例年「学校で大地震が発生した時に、あなたは生き延びるための対策を考えていますか？」という質問に対し 50%以上が「学校が何とかしてくれると思うので、何も考えていない」と回答していたものが、10%と、大幅に生徒の意識改革ができた。

## 府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p>4 働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備</p>	<p>(1)職務の効率化</p> <p>(2)健康的で働きやすい職場の実現</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校掲示板等を活用して効率よく情報共有を行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉定時退庁日、学校閉庁日等を有効活用し、教職員一人ひとりが意識して時間外労働の縮減と健康管理に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)「効率的な仕事を意識し、働き方改革を行っている」肯定率85%以上を維持する。 [87%]</li> <li>1人当りの時間外在校等時間を月平均15時間以下 [9時間51分](2月末)</li> <li>ストレスチェックにおける「ストレス判定図」の「総合健康リスク」を教育庁(全体)の数値を20以上下回る。 教育庁(全体)[98] 本校[70]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定率 100% (◎) 年休を取りやすい職場の雰囲気づくりを意識し、1月の段階で年間での年休取得5日以上を、全員が達成しており、取得率 100%、平均取得日15日。</li> <li>達成 [9時間31分] (◎)</li> <li>教育庁(全体)[95] 本校[72] (○) 数値から上司、同僚とのコミュニケーションという2つのストレス要因の状況が良く、職場環境的に健康的な状態であると伺える。 また今年度のストレスチェックは全員が受検した。</li> </ul>
-----------------------------------	---	--	--	--